

「ミライ構想」の意義

ミライ構想
= 羅針盤

長期を展望して設定する

普遍的な豊田市のまちづくりの方向性

めざす姿

要検討

つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた

継承

● 「つながり」を通じ、多様な価値や可能性を創出するまち

・豊田市の多様な地域の資源を、愛着や誇りをもって守り、次代を担う子どもたちに継承する**持続可能なまちを実現するためには**多様な「人と人」「人と地域、自然」との**つながりを通じた「認め合い」「気づき」「学び合い」**がますます重要

地域共生社会

量よりも質の充実
DOよりもBE (どう生きる)

深化

● 「チェンジ (変化)」と「チャレンジ (挑戦)」を繰り返し、しなやかに変化し続け、成長する (※) まち

・変化のスピードが速く、常に前提が変わっていく社会環境において、**持続可能なまちを実現するためには、まちを能動的かつ柔軟に変え続けていくことが重要**。そのために、あらゆる主体が**変化を積極的・前向きに受容し、先進技術等も取り入れながら、主体的に一步踏み出せる**、心豊かな社会を実現していくことが必要。

(※) モノや量の増加ではなく、多様性や質的な豊かさを向上させること

幸福感は、「健康」「良い人間関係」「自己決定」

「ウェルビーイング」や「持続可能性」は重要テーマ

シュリンク時代→デジタルや技術革新を通じた**効率化の視点**がないと持続可能でない

デジタル化を進めることで「3つの変える」のうち「行動を変え」が期待できる

展望する年次

カーボンニュートラルの実現

2050年

国の総人口が約8割に
(2020年比)

技術の進歩による
社会生活の劇的な変化

まちづくりの基本的な考え方

発想の転換 【8総から継承】

- 「個の充足・完結」から「**つながり・関係性の拡がり・深まり**」重視へ
- 「ないものを補う」から「**あるものを生かす**」発想へ
- 「足し算 (積み重ね)」に「**かけ算 (組み合わせ)**」思考を
- 「行政がリードするまちづくり」から「**多様な主体が楽しむまちづくり**」へ

3つの「変える」を意識

●見方を「変える」<気づく>

・思い込みや前提認識を変える。多様な価値観を認識し、認め合う。

●思考を「変える」<考える>

・常に社会潮流の変化を観察し、考え方を柔軟に変化させる。

●行動を「変える」<行動する>

・主体的に物事を捉え、行動につなげていく。

都市構造

○ミライ構想における都市構造の基本的な考え方

『コンパクト+ネットワーク※』

※地域ごとの特性に応じて都市・生活機能を集約すべき箇所を『拠点』、
拠点の相互連携を強めるための公共交通や道路を『ネットワーク』として設定

都市構造の実現に向けた方針

- 生活** 拠点への更なる機能集積により地域の活力と魅力を向上
 - コンパクト+ネットワークの深化、拠点間の交流促進、地域の活性化を図るため、拠点への都市・生活機能の集積
- 産業** 既存インフラを生かした産業集積による競争力強化
 - 基幹産業の更なる発展とものづくり拠点としての強固な基盤を確立するため、インターチェンジ周辺等、利便性が高い地域への産業の集積
- 移動** ヒト・モノの移動に欠かせない交通ネットワークの強化
 - 広域な都市間・市内の拠点間の移動に係る連携機能を強化するため、安定的かつ効率的な移動を実現する交通ネットワークの強化
- 自然** 自然の保全・維持、次世代への継承
 - 貴重な地域資源である森林・里山等の環境保全、優良農地を維持するため、農林漁業振興と調和したメリハリのある土地利用を推進
- 防災** 激甚化・頻発化する自然災害に対応する防災まちづくりの推進
 - 災害リスクに対応するための防災・減災対策の推進、災害リスクを踏まえた土地利用の推進



本市の魅力とポテンシャルを最大限に引き出すため
既存のインフラや都市・生活機能を徹底的に利活用

まちづくりの新たな視点

- 暮らしに必要な都市・生活機能を拠点間で連携
市域全体での暮らし機能の連携
- 鉄道のポテンシャルを生かし、駅の立地特性に応じて居住を誘導
鉄道沿線に『(仮)えきちか居住誘導エリア』を設定

【基本的視点】

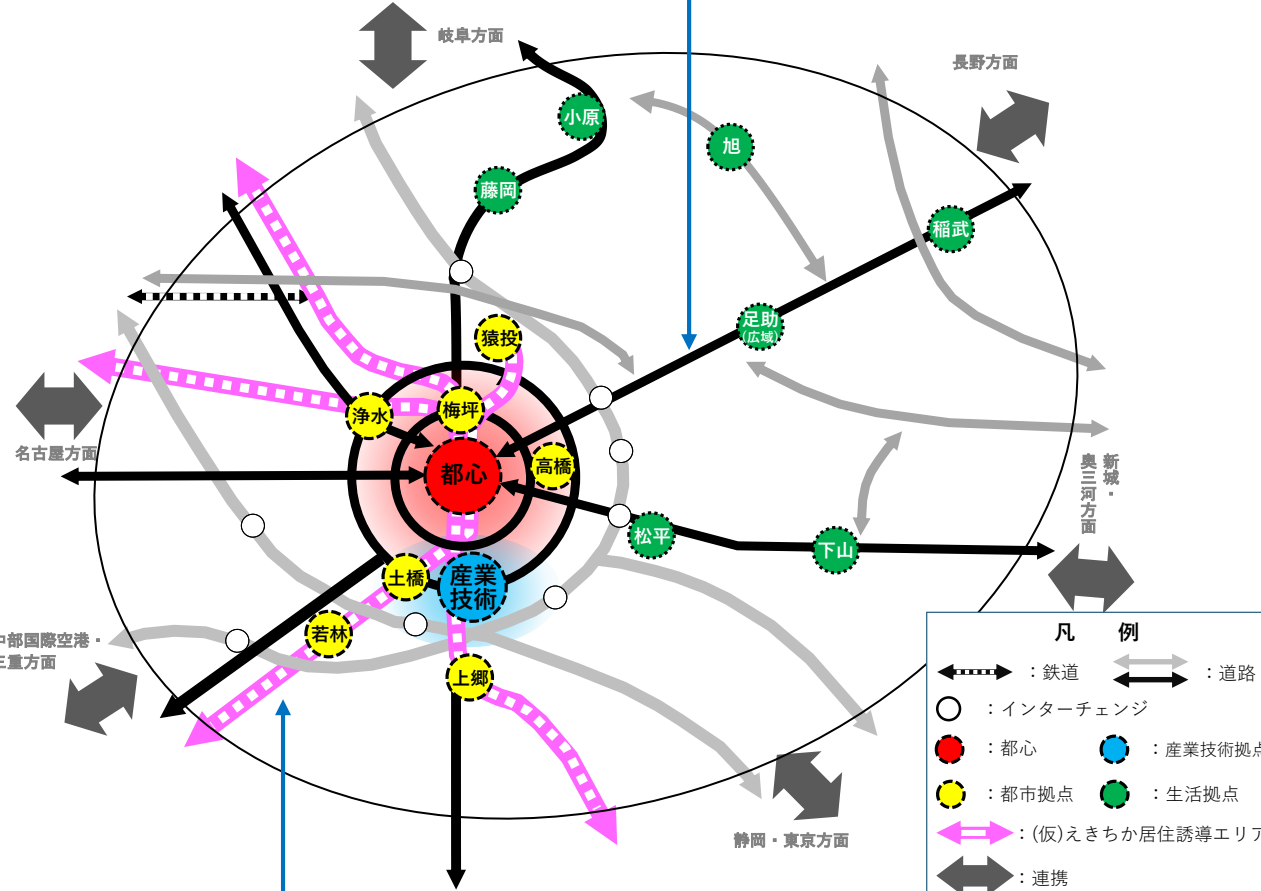
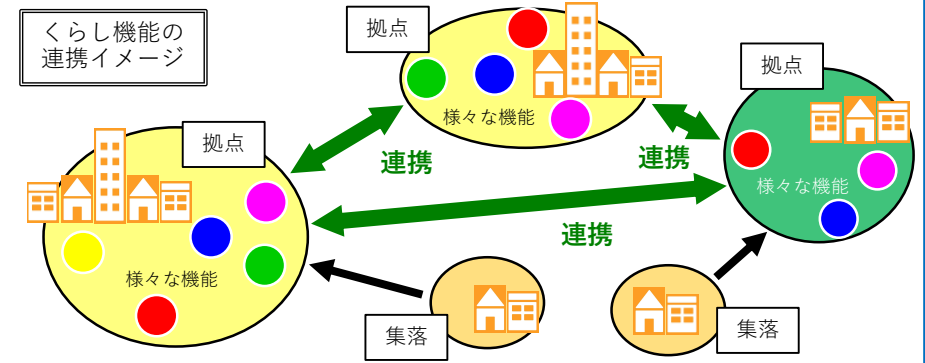
多様な主体との連携

デジタルの活用

都市構造のイメージ

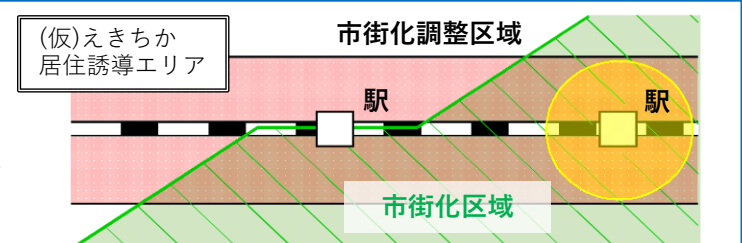
【暮らし機能の連携】

・将来に渡って安心して暮らし続けることができるよう、暮らしに必要な都市・生活機能を拠点間で連携するとともに、デジタルの効率的な活用により機能を確保



【(仮)えきちか居住誘導エリア】

・利便性の向上や地域活性化のため、鉄道の強み（都市間のアクセス性や円滑な市内移動）を最大限に生かし、市街化区域を基本とした沿線への居住を誘導



都心：都市・生活機能の更なる集積を推進、交通結節機能の強化
産業技術拠点：基幹産業の強化、生産研究機能の高度化、業務機能等の立地誘導、都市・生活機能の集積
都市拠点：鉄道・バスの高水準な交通サービスの確保、都市・生活機能の集積
生活拠点：山村地域の暮らしに必要な都市・生活機能の維持、関係人口創出を始めとした交流促進、加えて、足助は広域的な都市・生活機能を有する拠点として山村振興に必要な機能を確保